



企業のDX推進を強力にサポートする 「Web Performerアジャイル開発支援サービス」

デジタルビジネス向けのアプリケーション開発では、市場環境への俊敏な対応を図るため、評価と改善を迅速に繰り返すアジャイル開発が適しています。そこでキヤノンITソリューションズ株式会社（以下、キヤノンITソリューションズ）は、自社のローコード開発ツール「Web Performer」と日立の「アジャイル開発コンサルティングサービス」を組み合わせた新サービスで、お客さまのデジタルトランスフォーメーション（DX）を強力に支援していきます。

■ アジャイル開発にもWeb Performerを活用したい

先進ICTと元気な社員で未来を拓く”共想共創カンパニー”をめざすキヤノンITソリューションズ。キヤノンマーケティングジャングループのITソリューション企業として躍進を続ける同社は近年、機械学習をはじめとするAIやビッグデータ解析などを活用したデジタルビジネスに注力し、お客さまの新規ビジネスの創出やDXを支援する取り組みを進めています。

「新規ビジネスの創出では環境変化への俊敏な対応が必要と考え、日立さんと一緒に開発したのが“Web Performerアジャイル開発支援サービス”です。本サービスは、お客さま企業の内製開発を強力にサポートする当社のWeb Performerと、アジャイル開発で豊富な知見と実績を持つ日立のアジャイル開発コンサルティングサービスを組み合わせたもので、DXに不可欠な迅速なシステム開発と、お客さま企業へのアジャイル開発手法の導入・定着を支援するものです」とデジタルビジネス推進部 部長 新 正三氏は語ります。

高度なコーディング知識や経験を必要とせず、Webアプリケーションを自動生成するローコード開発プラットフォーム「Web Performer」は、すでに累計1,000社を超える企業に導入されている製品です。プログラミングが不要なため、高速かつ開発コストを抑えたシステム導入ができるほか、システム改修も容易で運用保守負担の軽減にも貢献します。

しかし、「Web Performerの強みをさらに生かすには、これ

までのウォーターフォール型開発では限界がありました。なぜなら、システム開発の上流工程である要件定義や基本設計の要求が固定化されたままでは、環境変化に俊敏に対応することができず、DXに必要な開発の迅速性が損なわれてしまうからです。そこで、既存のウォーターフォール型開発だけでなく、アジャイル開発も支援できるサービスが必要ではないかと考えました」とデジタルビジネス推進部 石塚 裕氏は説明します。

■ 両社の強みを生かした新サービスを創生

2019年当時は、まだキヤノンITソリューションズ内でアジャイル開発の専門チームは存在しませんでした。

「そこでWeb Performerの販売パートナーとして10年以上の実績があり、お客さま向けプロジェクトや社内開発でもアジャイル手法のひとつであるスクラムを大規模体制で実践してきた日立さんをパートナーに、新しいサービスを立ち上げることにしたのです」とソリューション推進部 部長 高橋 嘉文氏は語ります。

キヤノンITソリューションズが目じたのは、すでに日立が提供していたアジャイル開発コンサルティングサービスでした。同サービスはアジャイル開発を検討するお客さまに、開発に必要なプロジェクトルームと開発環境を提供するほか、日立が培った経験やノウハウに基づき、認定スクラムマスターによるコーチングで、短期間でのアジャイル開発の導入からプロジェクトへの定着化を支援するものです。このサービスとWeb

キヤノンITソリューションズ株式会社

<https://www.canon-its.co.jp/>

Canon

キヤノンITソリューションズ株式会社

所在地 東京都港区港南2-16-6 キヤノン S タワー
 設立 1982年7月1日
 資本金 3,617百万円
 従業員数 3,552名(単体) (2019年12月末日現在)
 事業内容 SIおよびコンサルティング、各種ソフトウェアの開発・販売

Performerの開発環境を組み合わせることで、キヤノンITソリューションズはDX時代におけるお客さまの課題を解決できると判断しました。

2019年秋、キヤノンITソリューションズと日立は両社のリソースを持ち寄った新サービスの開発に着手。お客さまのビジネステーマをヒアリングして適切な開発方法を提案する「アジャイル開発アセスメント」、Web Performerの開発環境をクラウドで提供する「Web Performerアジャイル開発プラットフォーム」、認定スクラムマスターが開発から定着を支援する「アジャイル開発コーチングサービス」、そしてお客さまとプロジェクトメンバー全員が集う「プロジェクトルーム」の提供などで構成された新サービスを2020年6月にリリースしました。



石塚 裕 氏

キヤノンITソリューションズ株式会社

新 正三 氏

高橋 嘉文 氏

両社の商材を組み合わせ、DXをさらに加速

「本サービスはもともと、アジャイル開発を要望されるお客さまに提供するものですが、すべてのケースでアジャイルが向いているとは限りません。例えば基幹系システムにWeb Performerを適用する場合はウォーターフォール型の方が適していることもありますし、企業文化や社内体制によってはアジャイル開発を受け入れられない可能性もあります。そこで、お客さまのご要望や事業テーマをきちんとヒアリングして、どちらの開発方法が向いているかをご提案していきます」と石塚氏は語ります。

Web Performerの開発環境はクラウド版の「WebPerformer Cloud」で提供されますが、アジャイル開発での使いやすさを念頭に、CI/CD(継続的インテグレーション/継続的デリバリー)環境や構成管理ツール、コミュニケーション管理ツールなどをセットで提供し、すぐに開発が行えるよう工夫されています。

「コーチングサービスについては当面の間、日立さんのご支援もいただきますが、当社単独でも対応できるようスクラムコーチの育成を進めています。また、当社のSEがスクラムチームの開発エンジニアとして対応できるよう、順次、アジャイルとスクラムの基本教育を進めています」と高橋氏は説明します。

Web Performerアジャイル開発支援サービスを導入した企業は、定評あるローコード開発ツールとアジャイル開発の適用がワンストップで実現できるため、システム開発とDXを一段と加速させることが可能となります。キヤノンITソリューションズではコロナ禍のリモートワーク環境でもアジャイル開発が推進できることを証明するため、社内向けの営業見積もりワークフローシステムや休暇申請システムを、それぞれわずか2か月でリリース。これらのプロジェクトの知見とノウハウをオンラインセミナーで広く公開したことも契機となり、複数の企業からWeb Performerアジャイル開発支援サービスへの引き合いが来ています。

最後に新氏は、「今後も日立さんとの協業を継続しながら、サービス機能の強化や、両社が持つさまざまなデジタルビジネス商材を組み合わせた付加価値の高い提案で、お客さまのDXを支援していきたい」と力強く語りました。

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 アプリケーションサービス事業部
<https://www.hitachi.co.jp/agile-consulting/>

